

日頃ワクチン接種に携わっていると、多くの質問を受けます。今回はその中のいくつかをみてみましょう。

副反応が心配です

ワクチンは、無毒化・弱毒化した病原体由来の成分を事前に接種することで免疫をつけ、実際に病原体が体内に侵入したときに重症化を防ぐ効果があります。接種時には、体が免疫の反応を起こすため、副反応の一つとして、発熱や接種部位が腫れることがあります。数日で改善します。接種後の発熱や腫れなどの副反応は、マラソン完走をめざし、ランニングを続ける中で生じる筋肉痛のように、大きな目標に向けた活動中に起こる反応の一つと考えてみてはどうでしょうか。アナフィラキシーなどの重篤な副反応の発生は極めてまれです。

感染した方がしっかり免疫がつかないのでは

感染後にはしっかりと免疫がつかないかもしれませんが、感染時に

重症化したり後遺症を残したりする場合があります。ワクチンで予防できる病気に感染して免疫をつけることはお勧めしません。接種したい人だけが接種すれば良いのでは

ワクチンを接種しても、まれに免疫がつかない人や、接種後の時間経過で免疫が低下する人がいます。また、ワクチンに対するアレルギーで接種できない人もいます。そのような人の感染リスクを減らすためにも、ワクチンは免疫をつけたい人だけが接種するだけではなく、できるだけ多くの人が接種し免疫をつけ、感染拡大を防止することが重要です。

もちろん、ワクチンの接種は強制ではないので、説明文を読んだり医師の説明を聞いたりしたうえで、接種した場合のメリット、副反応などのデメリットをしっかりと検討し、選択をしていただければと思います。